

平成 29 年 12 月吉日

各 位

一般財団法人住宅生産振興財団
理事長 竹中宜雄

真に豊かな暮らしとは

— 米国における伝統的都市型・先進的環境共生型住宅コミュニティと F. L. ライトの住宅建築視察を通して —

米国住宅地開発事例視察団参加募集のご案内

拝啓 平素より財団業務につきましてご高配をいただき、誠にありがとうございます。

さて、ご好評をいただいております当財団主催の海外住宅地開発事例視察プロジェクトでございますが、平成 30 年度は下記のような企画といたしました。

米国を代表する大都市イリノイ州シカゴ市およびその近郊においては、フランク・ロイド・ライトによる住宅建築で有名な“オーク・パーク”地区と、ランドスケープ・アーキテクトとして有名なフレデリック・ロー・オルムステッドによる“リバーサイド”の二つの伝統的住宅コミュニティ、そしてシカゴ中心部の新たな都市デザイン事情を見学し、都市型、郊外型居住のあり方を実感していただきます。

一方コロラド州最大の都市デンバー市では、ピーター・カルソープによる「脱車依存」の環境に配慮した郊外型大規模複合住宅地開発の“ステイプルトン”を、高地トレーニングのメッカとして日本にも馴染みのある大自然に囲まれた「全米で最も暮らしやすい街」同州ボルダー市では、A. デューアーニ／E. P. ザイパーク（DPZ）による TND 型郊外住宅地開発“プロスペクト・ニュータウン”を中心に視察し、環境により沿った暮らしのあり方を、都市の成長管理政策の観点を踏まえ実感していただく予定です。

プロジェクト・コーディネイトおよび現地同行案内者には、昨年に引き続き明治大学工学部建築学科准教授で、FTS Urban Design 日本事務所を主宰される佐々木宏幸氏にご担当いただきます。

評価され続けるコミュニティ、環境配慮型住宅地開発の現状と街並みのデザイン、住宅地の良好な管理事情などを基幹テーマとして、最新情報を取り入れた解説をしていただきつつ、各地区の視察およびテーマに沿ったヒアリングを行ってまいります。

またデンバーおよびボルダーでは、中心市街地再活性化に成功し魅力的な街並を再構築した事例として、街並みの賑わいをコミュニティに活かす手法を学びます。

以上、本プロジェクトにつきまして、皆様方のご参加をいただけますようご案内方々お願い申し上げます。

敬具

<住みたくなる街、評価され続ける価値ある住宅地とは？>

19世紀後半、英国において“ピクチャレスク”な住宅地開発の事例として注目された「ガーデン・サバーブ」。米国でも鉄道時代の到来とともに、F. L. オルムステッドらによりシカゴの郊外に「リバーサイド」が開発され、不規則な曲線道路網とグリーン・ネットワーク・システムを取り入れた独創的なデザイン、各家屋の前庭、横庭の緑から敷地中央を流れる河川脇の保存林までさまざまな“緑”を結ぶコモン・スペースのネットワーク・システムなどが、当初から高い評価を得た。

レッチワースで著名なE. ハワードも1870年代にこの地を訪れた際に、多大な影響を受け、彼らによる英国での「ガーデン・シティー」開発のヒントを得たといわれる。（レッチワース：1903年～、ウェルウィン：1919年～）

1869年に計画されたこの「リバーサイド」は、現在に至っても郊外住宅地として高い評価を受け続けており、ここでは人々を魅了する街並みデザインを中心に視察。



リバーサイドの住宅とフロント・ヤード

Riverside 駅ホームとランドマークの給水塔

<F. L. ライトによる住宅建築、歴史あるまちなみを見る>

シカゴ中心地から西へ約20km、閑静な住宅地「オーク・パーク」および「リバー・フォレスト」地区には、F. L. ライトによる戸建て住宅を中心とした数多くの建築物が存在する。オーク・パークの“プレイリー派”と呼ばれるスタイルのライト設計による戸建て住宅は、敷地境界を仕切る柵や垣根が存在することなく建ち並ぶ。一見住宅内が外部より見えてしまうようだが、リビングを1階分上げて設計することによりほぼ完全にプライバシーは守られ（“蹴られの空間”の創造）、内部からも外部からもそれぞれの存在を意識することなく生活できる独特の空間を造りだしている。

住宅設計者にとって“聖地”とも言えるこのエリアでは、「ライト邸」「フランク・W・トーマス邸」「トーマス・H・ゲイル夫人邸」などライト建築の“妙”を堪能する。



F. L. ライト・ホーム&スタジオ

オーク・パークの住宅

＜大自然とグリーンベルトに囲まれた“全米で最も暮らしやすい街”を実感する＞

高地トレーニング先として日本でも有名なボルダーは、F. L. オルムステッドJr. による構想を基に都市の成長管理政策を導入して環境保全に成功し、全米で最も暮らしやすい街と評価されている。ここでは都市の無秩序な成長(スプロール)やそれによる環境の悪化などを未然に防ぐために整備された「グリーンベルト」の役割や中心市街地再活性化事例として有名な「パール・ストリート」に加え、ニュー・アーバニストの雄、A. デュアーニ/E. P. ザイバーク(DPZ)による TND型郊外住宅地開発「プロスペクト・ニュータウン」を視察する。



パール・ストリート



ボルダーの街を囲むグリーンベルト



DPZのプロスペクト・ニュータウン

＜ニュー・アーバニストによる郊外型大規模複合開発と中心市街地活性化＞

アメリカン・ロッキーの麓、標高1600mのデンバーとその周辺地域は、米国を代表するニュー・アーバニスト、ピーター・カルソープ事務所のマスター・プランによるサステナブルでアフォーダブルな郊外型大規模複合開発「ステイプルトン」を中心に視察する。

美しいロッキー山脈の遠景と澄んだ空気のもと、脱自動車をうたったコミュニティー、「ステイプルトン」はかつてのデンバー空港跡地に、1998年より25年の予定で開発中の全米最大級のサステナブル・コミュニティー開発事例。開発面積1,900ヘクタールに、アフォーダビリティを兼ね備えた12,000戸の戸建ておよび集合住宅(人口30,000人規模)に加え、就労者数35,000のビジネス商業地区などを建設中。

開発地の中心部にはデンバーのダウンタウンへ13分、空港へ24分で結ぶ郊外電車の駅を設置し、加えて敷地内には路線バス網を張り巡らせている。また敷地面積の30%を公園などのオープン・スペースとし、全長130kmにも及ぶフット・パス(歩行者および自転車専用路)、主に地場産の樹木を20,000本以上植樹するなどの特長も持つ。

エリアごとに異なる住宅デザインは、ナンタケットやケントランド・スタイルなどの米国で人気の高いTND(伝統的隣住区)型開発をモチーフとしている。またこの住宅地では、自宅前の街路樹、植栽、歩道の美化と管理を個々の住宅の分担とさせるなど、「向こう3軒の良好な関係」の構築を目指しており、その管理分野面でも参考としたい。



緑のコモンを充分にとった伝統的隣住区型住宅開発群



RTD Central Park 駅

一方「ハイランズ・ガーデン・ビレッジ」は、デンバー市の中心から北西へ車で15分の、かつての遊園地跡地(11ヘクタール)に開発されたアフォーダブルな複合住宅地開発。

こちらもカルソープ事務所によりデザインされ、52のシングル・ファミリー用住宅、74のマルチ・ファミリー用住宅、63のシニア向け住宅、33のコ・ハウジング、26のリブノワーク(店舗一体型住宅)など生活スタイルに則したさまざまな形態の住宅が混在している。

コモン広場を中心とした敷地にはフット・パスがめぐらされ、徒歩あるいは自転車での移動線を確保している。また主に管理組合によるファーマーズ・マーケット開催やコモン広場での夜空の映画鑑賞会、クラシックやポップスのコンサート、ヨガ教室の開催など、住民生活の向上に向けてのさまざまな仕掛けを行っている点も大きな特徴といえる。

このプロジェクトは、ULI(アメリカ都市計画協会)2007年度のアワード受賞を初め、環境分野の賞などを数多く獲得している。



イベントなど多目的に利用されるコモン



ポケット・パークとフット・パス



遊園地の施設をランドマークとして残す



デンバー中心街、16番街を行く無料バス



デンバー・コンベンション・センターとLRT



ロッキー山脈の山並み

<同行コーディネーター>

佐々木宏幸氏

明治大学理工学部建築学科 准教授 / 合同会社FTS Urban Design社 代表
博士(芸術工学) 一級建築士 米国公認都市計画家(AICP)

横浜市出身 東京大学工学部建築学科卒業

カリフォルニア大学バークレー校大学院都市地域計画学科修士課程修了

(株)フジタ勤務を経て、ピーター・カルソープ事務所へ駐在し、数々のニュー・アーバニズム思想によるプロジェクトに携わったのち、在サン・フランシスコのアーバン・デザイン会社 Freedman Tung and Bottomley (2007年にFreedman Tung + Sasakiに社名変更)入社

2005年7月より同社の共同代表を務める

2008年8月、FTS Urban Design日本事務所設立、主宰

2010年度より本財団主催海外視察団においてコーディネーターを担当し、その深い造詣と行動力で団員はじめ関係者の高い評価を得る

アメリカにおいて「住民参加型まちづくり」「ダウンタウン活性化」などを専門に手がけたのち、現在は「戦略的アーバン・デザインによる都市の再構築」を中心に活動中

視 察 日 程 表

日数	日付	曜日	発着地	時間	交通機関	摘要
1	7月／ 10日	火	成田(TML1・南)発 一日付変更線通過－ シカゴ(TML5)着	17:15 15:30	UA882 (777) 貸切バス	ユナイテッド航空便にてシカゴへ (飛行時間:11時間45分) 着後:ミシガン湖畔からシカゴの街を展望し、 ミレニアム・パーク視察後ホテルへ 19:00～:市内レストランにて夕食会 (シカゴ泊)
2	11日	水			貸切バス	08:30 ホテル発 09:15～11:30:“オーク・パーク”にてF. L. ライト 設計による住宅群視察と“リバー・フォレスト”視察 13:00～13:45:F. L. オルムステッドによる鉄道 沿線型ガーデン・サバーブ“リバーサイド”視察 14:30～、ホテル着後自由視察 (シカゴ泊)
3	12日	木	シカゴ(TML1)発 デンバー着 ↓約72km ボールドー	14:45 16:25	貸切バス UA407 (739) 貸切バス	09:00～11:30:シカゴ川沿いの建築物群と市内 視察(シカゴ川リバー・クルーズなど) ユナイテッド航空便にてデンバーへ (飛行時間:2時間40分) 着後:ボールドーへ移動 (ボールドー泊)
4	13日	金	ボールドー ↓約25km ロングモント ↓約60km デンバー		貸切バス	09:00 ホテル発 09:00～10:30、ボールドー市内視察 オルムステッド Jr.によるランドスケープ 事情、パール・ストリートなど) 11:00～11:45、DPZによる郊外住宅地開発 “プロスペクトNT”視察 14:00、ホテル着後徒歩にてデンバー市内視察 (16番街再開発など) 15:30～、自由視察 (デンバー泊)
5	14日	土			貸切バス	09:00～17:00、P.カルソープによる大型サステイ ナブル・コミュニティ“ステイプルトン” と“ハイランズ・ガーデン・ビレッジ”視察 19:00～:全体で夕食会 (デンバー泊)
6	15日	日	デンバー発	12:30	貸切バス UA143 (788)	ユナイテッド航空便にて帰国の途へ (飛行時間:11時間50分) (機中泊)
7	16日	月 (祝)	一日付変更線通過－ 成田(TML1・南)着	15:20		

※ 日程表に記載した訪問・視察先は、先方の都合等で変更となる場合がございます

※ 日程表に記載したフライト番号、発着時刻等は当該航空会社の都合で変更となる場合もございます

募 集 要 項

派遣期間：平成30年7月10日(火)～7月16日(月・祝日) 7日間

派遣日程：別紙日程表ご参照

募集人員：20名

旅行代金：¥670,000-

＜旅行代金に含まれるもの＞

エコミークラス航空運賃、宿泊費(2人部屋利用基本)、朝食5回、夕食2回、現地交通費、
現地ガイド・アシスタント費用、コーディネイター諸費用、添乗員諸費用、成田空港施設使用料、
米国出入国関連諸税、団体行動中のチップ等の諸経費、企画手配旅行総合コーディネート経費

*参加人員が15名に満たない場合、旅行代金の変更等がございます。

*ホテル個室利用ご希望の場合、差額金：¥99,000-を申し受けます。

*日本国内の接続便の手配を承ります。ご希望の節は書面にて別途ご案内いたします。

*燃油特別付加運賃は別途申し受けます。

*2人部屋利用希望者の有無等の理由により、個室手配でのご参加をお願いする場合がございます。

*米国国内線ご利用時には、受託手荷物料金(@ \$25-)を空港にて別途お支払いいただきます。

*米国入国にあたり必要な米国渡航認証(ESTA)は、お客様ご自身にてWEB上にてご取得いただきます。

(詳しくは追ってご案内いたします。料金は\$14です)

*ビジネスクラス席ご利用等のご要望にもお応えいたします。その節は個別にご相談を申し受けます。

申込み締切り：平成30年4月28日(金) *定員になり次第、締切りとなります。予めご了承下さい。

申し込み要領：別添の参加申込書に必要事項をご記入の上、パスポート・コピー(顔写真面見開き)とともに
下記宛にEメール、FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

申し込み先：一般財団法人住宅生産振興財団 担当：伊代田優子
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-11-15 SVAX TTビル5階
電話：03-5733-6733 FAX：03-5733-6736
E-mail: iyo@machinami.or.jp

お取り消し：ご参加者の都合にて取消し・変更が生じた場合、旅行業法に基づき、既に手続きを開始または
終了している場合はその実費(例：航空券発券後の航空会社へ支払う払戻し手数料など)と、
別途下記手数料を申し受けます。

6月10日～6月18日までのお取り消しの場合……………旅行代金の20%

6月19日～6月25日までのお取り消しの場合……………旅行代金の30%

6月26日～7月08日までのお取り消しの場合……………旅行代金の50%

7月09日以降および出発当日お取り消しの場合……………旅行代金全額

企画主催：一般財団法人住宅生産振興財団

旅行手配：東京都知事登録旅行業第3-3760号 一般社団法人日本旅行業協会正会員
株式会社シー・ムーン企画 担当：湯本昭夫、棟方正吾
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-34-9伊藤ビル2F
電話：03-3667-2715 FAX：03-3667-3299
E-mail: yumoto@c-moon.co.jp munekata@c-moon.co.jp

その他：帰国後、ご参加の皆様にご報告書の作成するための原稿の執筆をお願いいたします。

(一財)住宅生産振興財団 行き
 (FAX:03-5733-6736)
 締切 平成30年4月28日(金)

「米国住宅地開発事例視察団」参加申込書

標記の研修旅行につきまして、下記の者の参加申し込みをいたします。

申込担当者(または渡航者): _____

氏名	ローマ字:	旧姓	性別	男 / 女
	漢字:			
生年月日	西暦 年 月 日(才)	喫煙	有 / 無	
自宅電話	携帯電話			
現住所	フリガナ:			
	〒			
所属機関名	日本語名:			
	英文名:			
同上所在地	フリガナ:			
	〒			
電話番号	FAX番号			
メールアドレス				
所属	役職			
所属先連絡担当者および電話番号	氏名:		電話番号:	
	所属:			
渡航中の国内緊急連絡先(配偶者または家族の方)				
氏名:		続柄: 配偶者・父・母・その他()		
住所:		電話番号:		
パスポート情報	旅券番号	※有効期間満了日が2018年10月16日以降であることを必ずご確認ください。		
	旅券発行日	西暦 年 月 日		
	有効期間満了日	西暦 年 月 日		
地方空港発着希望: あり / なし		往路(伊丹・関西・中部・福岡・その他)		
※別途手配料金を申し受けます。		復路(伊丹・関西・中部・福岡・その他)		
詳細につきましては、別途書面にてご案内いたします				
宿泊ホテルの個室手配希望: あり / なし		※別途追加料金を申し受けます(= ¥99,000)		
宿泊ホテルの同室希望者: あり / なし		※2人部屋宿泊ご利用希望の場合はご記入ください		
希望者の氏名/会社名:				
米国渡航認証(ESTA)番号、有効期限:		番号:		
*有効なものをお持ちの方のみご記入		有効期限: 年 月 日		

※別行動、延泊などの個別のご要望がございましたら、ご遠慮なくお申し出ください。
 ※お申込みにあたりましては、パスポートのコピーもご提出下さい。(旅券番号などが掲載されたデータ面ページ見開き)
 また、これから新規申請または更新申請をされる方は、こちらの旅行申込書を先にご提出いただき、
 新しいパスポートを受領された後に、パスポートのコピーをご提出下さい。
 ※個人情報保護法に基づき、ご記入いただいたデータは旅行手配業務の範囲内にも活用させていただきます。

